

第2回妖精資料活用検討懇談会議事要旨

日時：平成16年1月20日（火） 午後1時30分～

会場：宇都宮市役所9A会議室

出席委員：小林委員，木村委員，柏村委員，星野委員，小川委員，小関委員，松江委員
鈴木委員，福田委員

欠席委員：橋本委員

事務局：伊藤教育次長，渡辺主幹，北條課長，石井補佐，森田係長，梁木係長
荒井総括主査，石和主任主事

1 開 会（石井補佐）

2 会長あいさつ（小林会長）

来月の第3回目には，事務局でまとめたものが出てくるので，皆さんの想いを徹底的に述べていただき，それを提言書に反映させていただくようお願いいたします。

3 議 事

(1) 第1回懇談会議事要旨（案）について …… 了承

(2) ビデオ視聴 …… 了承

(3) 妖精資料活用事業基本計画の策定イメージについて

【柏村委員】

・基本計画を実行に移す際，単独施設での実施が前提か，それとも各既存施設での分散実施が前提か。

中核施設を中心に市内全域で事業を展開して行きたいと考えている。

・基本計画の策定イメージを実行に移すとなると手厚い人員配置が必要であると思うが，既存の定数の枠内での実施を考えているのか。

管理運営等の人員配置は必要と考えているが，具体的な人数については，今後検討していく。

・活用方策をまとめるにあたっては，実現可能な範囲で議論すべきである。

・きちんとした妖精施設を造るなら専門家を配置する必要がある。例えば市美術館のように専門家を配置しないと事業が成り立たない。

・市の財政状況からすれば，基本計画の策定イメージを実行に移すことは困難であると考え。現在，宇都宮城址公園の整備も計画中であり，すべての施策に力をそそぐ余力は無く，どっちつかずの施設になってしまう恐れがある。

・寄贈された書籍は数が少ないため専門的な施設なら数万冊は必要ではないかと考える。

・妖精資料を中心にした専門的な施設ではなく，故郷をもう一度見直すという意味での施設をつくり，その中の一部として妖精資料を使うということなら良い。

【福田委員】

- ・妖精は、市民にとって夢があるテーマであり、魅力的である。
- ・寄贈資料の他に追加収集し、子供からお年寄りまで楽しめるものにしてほしい。

【小川委員】

- ・事務局から提示された本の題名からは、どの本が読み聞かせに相応しいものか判断出来ない。
- ・読み聞かせは、たくさんの中からおもしろい話、感動する話を選んで子供たちにお話をするものである。始めに妖精というものがあるものではない。

【星野委員】

- ・施設開館の際には、大々的なオープニングセレモニーを開催したらどうか。
 - ・周年事業や定期的な音楽等イベントを開催したらどうか。
 - ・日常的に音楽や映像を提供する機能があると良いのではないか。
 - ・妖精、ケルトの音楽は、たくさんあるので活用したらどうか。
 - ・井村氏を呼んで講演会を開催したらどうか。
 - ・演奏ステージが必要であり、ピアノの常設も検討してはどうか。
 - ・寄贈書籍を活用して朗読会を開催したらどうか。
 - ・少人数の寸劇を開催してはどうか。
 - ・グルック、ベルリオーズのバレエに出てくる妖精の踊りやケルト民俗舞踏を取り上げてみてはどうか。
 - ・専門の芸術顧問を置く必要がある。
 - ・アンケートやホームページで市民の希望を取り入れながら運営を行う必要がある。
 - ・シティーホールふれあいコンサートのような運営方法で出演者に妖精等の音楽を1曲は演奏するという条件を付けセミプロ等に場所を提供したらどうか。
- ハイアマチュアに門戸を開放したらどうか。

【小関委員】

- ・妖精資料をきっかけとして専門的な施設ではなく人々の五感にうったえるような、夢の中に子供たちを連れていけるような施設が出来ないか。
- ・妖精をテーマとした施設は全国でも珍しく新しい夢のある施設にしてもらいたい。

【松江委員】

- ・資金が潤沢にあれば、施設を建てて絵画や彫刻作品を増やすことも考えられる。
- ・市民は、井村氏から妖精資料の寄贈があったことについて少なからず興味を抱いている。子供から大人まで楽しく妖精資料が閲覧できる機会がもてないか。
- ・文化会館等の事業企画に妖精コンサートを入れてもらったらどうか。
- ・宇都宮城址公園の整備の中で妖精のスペースをもてないか。
- ・中心部に施設を整備するのであれば、駐車場の課題についても検討してほしい。
- ・美術や文芸など妖精をテーマにした公募展や仮装パーティー、ミス・フェアリーコンテストを実施してはどうか。

【鈴木委員】

- ・市民にとって「妖精のまち」は魅力的で素敵なフレーズである。
- ・財政状況からすれば、今あるものを活用して事業を展開した方が良い。
具体的には、市美術館の小企画展が実施できないか。
- ・二荒山神社周辺の公園やビルの再開発事業の中で整備できないか。
二荒山神社周辺の再開発については具体的な内容を明らかにできる段階ではない。
- ・黄鮎の携帯アクセサリのような妖精グッズもほしい。

【木村副会長】

- ・オスカーワイルドの朗読会を実施してはどうか。
- ・宇都宮市に妖怪を70点寄附した人がいるとの話をきいた真偽はいかがか。
後日、調査をしたい。
- ・活用分類の書かれた妖精にオスカーワイルドを含めると内容が埋もれてしまうので8番目に「オスカーワイルド」の項目を追加できないか。

【小林会長】

- ・活用分類について1番と2番をまとめて「1 文学に現われた妖精」、3番と4番で「2 美術に現われた妖精」、5番と6番で「3 舞台芸術に現われた妖精」、7番を「4 映像に現われた妖精」に変更し、「5 オスカーワイルド」を追加したらどうか。
- ・グッズのデザインは美術の専門家が行うのも良いのではないか。

(4) 意見交換

【柏村委員】

- ・井村氏の寄贈資料の金額的な価値ではなく、資料的な価値を評価する必要がある。
- ・貴重な図書資料などが散逸したら妖精学の研究を継続できないため保存活用していかなければならないといったような前段の整理が必要である。
- ・宇都宮に妖怪が馴染むのか。何故妖精なのかといった理由付けもしっかりしておかないと一過性のものになってしまう恐れがある。この件についてもっと議論をすべきである。
- ・ジャズ、カクテル、餃子は市民に認知されている。

【小関委員】

- ・餃子のまちは宇都宮が餃子消費量が全国一とのことで始まったが、市民は当時認めていなかった。まちづくりは自分達で創り上げていくもの。プレスをかけた日本全国に発信して、認知されだしたのはここ2、3年のことである。

【小川委員】

- ・まちづくりは自分達で創り上げていくものということはわかるが、何故妖精のまちなのと聞かれたら井村さんから資料の寄贈をいただいたからとしか言えない。

このこと以外に市民が納得するための理由が必要である。

【星野委員】

・出発は既存施設のコーナーを間借りして、市民の評価によって段階的に資料を増やしたらどうか。

【福田委員】

・妖精資料によってまちづくりの種がまかれたと思えば良い。市民は、学術的なことではなく妖精に癒しを求めているのである。まかれた種をどう育てるかという方向に目を向ければ、この議論は無駄にならない。

【小林会長】

・寄贈をまちづくりの1つのきっかけに抽象的でどこにでも貼り付けられる妖精で癒しのセンターをつくりたいと市長は考えている。今日いただいた皆様のご意見を反映させていただくことで事務局にお願いしたいと思います。

【小川委員】

・同じタイトルの本でも読み聞かせに適切なものとそうでないものがある。現在、整理作業中の書籍を拝見できないか。

すべての書籍を閲覧するのは困難であるが、妖精とケルトの約2千冊については、書棚にあるので可能である。

(5) 次回懇談会の日程について

- ・日時：平成16年2月16日(月)PM2:30~
- ・会場：未定

(6) その他

- ・特になし

4 閉 会(石井補佐)